
天下布武

臣

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

天下布武

【Zコード】

Z2196Z

【作者名】

臣

【あらすじ】

ある武将の最後の時。しかし彼の未練は大きかった。そこに神と名乗る男が現れ…。

その男は、今にも焼け落ちそうな寺の一室に居た。

戦国のこの世に生を受け、天下統一を夢見て時代を駆け抜けたその男は、部下に裏切られ、この紅蓮の炎の中で果てようとしている。天下は目前だつた。

「もはやこれまでか

腹をからげ、短刀を鞘から抜く。全身を熱風が包む。そして、男は自らの人生に幕を下ろした。

「…おい」

俺を呼ぶ者がいる。

「おい」

誰だ？俺はもう少し寝ていたい。

「おいつつてんだ、起きやがれ」

驚いて目を覚ますと、そこには見覚えの無い風体の男が居た。周囲を見回すと、何もない、ただ真っ白な空間。

「お前は誰だ。なぜ俺を起しす。俺はもう死んだはずだが」

「おつとも、おさんは死んだ。しかしねお前さん、おさんは自分が死んだことにも、なぜそうなったかにも全く納得がいってねえようだ」

俺は少し驚いた。そのとおり、何も納得していない。出来る道理がない。

「お前、なぜそれが解る。大体お前は何者だ」

「俺かい。俺はお前たち人間の言ひとひの、神様つてヤツだ。お前さんは生きているから神仏は信じないタチだったみたいだが、どうだい、実際に見てみた感想は」

「生きているこりなり言じもしなかつたわ。それどこりかお前など無礼討だ。

しかし、今の状況ではどうも信じ難いを得なこようだ」

「そつこなくつちやな。今お前さんがいるとこは、あの世とこの世の境目だ。

本来なら死んだ人間はあの世に行かなくちゃいけねえ。だがお前さんの心残りつてか、

未練つてヤツがそれを邪魔しちまつてこる。それで俺が来てやつたつてこいや」

どうやら俺の未練が強すぎて、成仏することもましてや生き返ることも出来ずにしてゐるようだ。

「つむ、それなら話が早い。俺は生き返つてもう一度天下を狙いたい。どうにか出来ないか」

「簡単に言つてくれるねえ。しかし、このままお前さんを放つておくと、どうも祟り神になりそうだ。かといってお前さんの生きてきた時代に生き返らせることはできねえ。

どうだい、ここは一つ、時代を変えて、別のもので天下を狙つってのは」

「別のものか」

「やつれ、お前さん商いは好きかい」

「ああ。俺は天下を狙う過程でいろいろとやつてきた。あれは面白い。

い。 いざれ世界を相手に商いをやってみたかつたくらいだ」

「よし、決まった。今からお前さんを、お前さんの時代よりもうんと未来へ連れていぐ。そこは武力よりも金が強い力を持つ時代だ。

商いの上手さが世界を動かすってえ時代さ」

「面白そつだな。よろしく頼む」

神のヤツに連れられて来た時代は、俺の想像を遥かに越えていた。妙な走る鉄箱は馬より早く人を目的地へ運び、人々が手にする小さなカラクリは

遠くに居る相手に瞬時に物事を伝える。新しいものや珍しいものを

知りぬくじてこむと思つていだが、 未来とやりまとひつもなく素

晴らしへ、

といつもなく雑多な時代のよつだ。

「なるほど、これから俺は「」ド商いによつて天下を狙つわけか」

「やうとも。それにつこて注意」とがこくつかあるぜ。まあ、お前
さんの時代の
常識を捨てろ。どんなに卑しい人間でも、この時代は殺しちゃあ
なんねえ。

武器なんか持つてるとすげにお繩だ」

「やうか、それは我慢するじよ」

「それともう一つ。人一人の運命つてのは俺たち神様でも変えるこ
とはできねえ。

どうなるかも分からんときた。お前さんも今までと同じやり方を
したら、

また火だるまになつてとんでもねえことになるぜ。まあ精々頑張
んな。

なんかあつたら呼んでくれりやあ、またお前さんの田の前に現れ
る。あばよ」

「「」苦勞」

まったく神のヤツは良い時代に連れてきてくれたものだ。
俺の商いはよく成功を収めた。

小さな商社から始まり、数年で世界各国に支社を置く
一流企業に上り詰めた。

まだ天下には及ばないが、それもあと一息といつといふだらう。

もちろん、俺は自分の運命に抗つために、まず
社員の火の不始末を徹底的に封じ込めた。

スプリンクラーや火災報知器を会社内、社員寮、
果ては関連施設にもこれでもかと言わんばかりに
設置し、喫煙場所は別棟を設け、警備会社に委託し、
放火による不審火にも万全の体制を築き上げた。

社員全てに俺の方針を伝達、役員会議で決まったものでも、
俺の意にそぐわないものは全て圧力をかけて潰した。
使えない部下はすぐに首を切つた。戦国時代の習いだ。
時代は変われど、結局は戦国時代のようなものだ。
そこで俺の経験はすこぶる役に立つた。

無能な者は俺の配下には必要ない。大事なのは手柄、そして結果だ。
手柄を立てた者にはそれ相応の恩賞を与え、そうでない者には鉄槌
を下す。

やっていることは戦国時代と変わらない。それで全てが上手くいっ
ていた。

俺の商いは順風満帆、天下は目前だった。

しかし、一人の部下が裏切り、俺の会社の
あることないことを世間に告発した。

その部下は役員であり、少なくない報酬を
受け取っていたはずだった。

一度世間に悪いウワサが立つと、立ち直るのは簡単ではない。
支社は次々と潰れ、本社も不渡りを出し、ついに資金繰りが

おぼつかなくなり、倒産してしまった。

俺は、全てを抵当として持つて行かれ、何も無くなってしまった
社長室で神のヤツを呼び出した。

「おひ、久しぶりじゃねえか。

しかし随分寂しい部屋に一人で籠ってるんだな

「神とやら、これは一体どういふことだ」

「つまりまあ、お前さんはまた炎に焼かれたってことだ。 台所は
火の車、

ってえヤツだな。運命は簡単に変えられねえって言つたらう」

それを聞いて、俺は頑垂れた。またやつてしまつたとこいつとか。
俺のその様子を見た神は、事もなげに「」と言つた。

「まあ、今回はまた同じ結果になつたけどよ。
前と違つているのは、命があるつてことだ。
命があるつてのは、素晴らしい。
さ、次は何で天下を狙うかい…」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2196n/>

天下布武

2010年10月10日21時19分発行